令和３年度

函館白百合学園高等学校

一般入学試験問題

国　　語

全コース共通

令和３年２月 16 日(火)実施

注意事項

１．　試験時間は 45 分です。
２．　問題は一から四まであり，13 ページまであります。
３．　答えはすべて別紙の解答用紙に記入し，解答用紙だけ提出しなさい。

一

次の問いに答えなさい。

問一　次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

①　危険をオカすやり方はやめてほしい。　②　入試問題をケントウする。

③　水道の蛇口から水がタれる。　④　新しい鉛筆をケズる。

⑤　将来のテンボウを語る。　⑥　時代をショウチョウするニュース。

⑦　カダイを提出する。　⑧　病気がデンセンする。

問二　次の――線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

①　家賃の支払いが滞る。　②　芝生の手入れをする。

③　体裁を整えた書類。　④　アルバムの写真を見て懐かしむ。

問三　次の四字熟語の□に漢字一字を入れなさい。

①　危機一□（意味　…　もう少しで危険な状態になるところであること。）

②　□刀直入（意味　…　遠回しの言い方をしないで、いきなり本題に入ること。）

問四　次の意味となる慣用句として最も適当なものを、それぞれア～エから選びなさい。

①　話の中に割り込んでくる。

ア　口がかたい　　イ　口がすべる　　ウ　口をはさむ　　エ　口をそろえる

②　目立って見える。

ア　目につく　　イ　目にうかぶ　　ウ　目を疑う　　エ　目を細める

③　心を落ち着けてじっと聞く。

ア　耳が痛い　　イ　耳に入れる　　ウ　耳を疑う　　エ　耳をすます

問五　次のことわざの□に漢字一字を入れなさい。

①　□からぼた餅（意味　…　思いがけない幸運にめぐり合うこと。）

②　目は□ほどにものを言う（意味　…　目は感情をよく伝えるということ。）

問六　次の行書で書かれた漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

補

二

次の文章は『枕草子』の一節で、冬のある日の出来事が書かれている。後の問いに答えなさい。

雪のいと高うはあらで、薄らかに降りたるなどは、いとこそをかしけれ。

（中略）

夜も更けてしまったかと思うころに

1よゐもや過ぎぬらむと思ふほどに、沓（くつ）の音近う聞こゆれば、**2**あやしと見出だしたるに、時々かやうのをりに、おぼえなく見ゆる人なりけり。「今日の雪をいかにと思ひやりきこえながら、何でふ事にさはりて、その所に暮しつる」など言ふ。「けふ来む」などやうの筋をぞ**3**言ふらむかし。昼ありつることどもなどうちはじめて、**4**よろづのことをいふ。円座（わろうだ）ばかりさし出でたれど、片つかたの足は下ながらあるに、鐘の音なども聞ゆるまで、内にも外にも、この言ふことは飽かずぞおぼゆる。

「今日の雪をどうご覧になるかと想像しながら、何でもないことに妨げられて、その場所で夜まで過ごしてしまったよ。」

「今からおじゃましよう」などという意味のことを、きっと言っているのであろうよ。昼あったことのあれこれをはじめとして、

円座（ざぶとん）を差し出したけれど、片足は下にたらしたままであったが、暁の鐘の音が聞こえるころまで、部屋を仕切るすだれの内側でも外側でも、お互いに話をすることは、飽きるということはないように感じられる。

（『枕草子』）

問一　――――線**1**「よゐ」を現代仮名遣いに改めなさい。

問二　――線**2**「あやし」の意味として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　変だな　　イ　今だな　　ウ　彼だな　　エ　雪だな

問三　――線**3**「言ふ」の主語を本文中から十九字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。句読点も一字とする。

問四　――線**4**「よろづのこと」を十字以内で現代語に訳しなさい。

問五　本文の内容として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　冬の早朝は雪が高く降り積もらなければならない。
イ　筆者はひそかに誰かが訪れることを予感していた。
ウ　思いがけない来客は、筆者にお土産を持ってきた。
エ　筆者は友人とのおしゃべりで楽しい時を過ごした。

問六　『枕草子』と同じ随筆の作品を、ア～エから選びなさい。

ア　竹取物語　　イ　徒然草　　ウ　万葉集　　エ　平家物語

三

主人公は余命わずかと宣告され、残された日々を過ごすための「ライオンの家」へやってきた。自分の部屋にいたところ、急にドアが開いて、何か白いものが飛んできた。以下は、それに続く場面である。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一瞬、ふわふわしているのでウサギかと思った。その後を、**1**誰かが追いかけてくる。白いかたまりは、ウサギではなく犬だった。その犬が、私の部屋の中を我が物 **a** で走り回っている。

「散歩から帰って足拭かないと、※マドンナに怒られるぞー」

少し遅れて部屋の入り口に現れたのは、明らかに病人とわかる男性だった。手足はやつれているのに、おなかだけがぽっこり出ている。

「あ、はじめ、まして」

床にお姫様座りをしていた私は、その場でぺこりとお辞儀をする。男性は手に、濡らした手ぬぐいを持っていた。どうやらそれで、白い犬の足を拭きたいらしい。確かに犬の足は、足先だけ、グレーの靴下を**A**履いているみたいに汚れている。

けれど犬は、男性をからかうように逃げ回った。スーツケースに入っていた私のぬいぐるみを見つけると、それを口にくわえて、楽しそうに暴れている。**2**まさか、ライオンの家に犬がいたとは！

「ペット、連れてきてもよかったんですか？」

たった今会ったばかりの男性に、私はたずねた。ずっと飼っていた亀を、親しくしていた会社の同僚に託してきたことを、しんみりと思い出しながら。

「いいみたいっすよ。でも、この犬、僕のじゃないっす。随分前にここで亡くなった人が飼っていた犬を、飼い主なき後もみんなで面倒見てるみたいで」

言いながら、男性は犬の足を拭こうと手を伸ばす。けれど犬は、相変わらずぐぅぐぅとうめき声をあげながら、ぬいぐるみとの**B**カクトウに夢中になっている。

「待て、ロッカ」

「ロッカ？」

（ **①** ）なれない響きに、

「六つの花って（ **②** ）て、ロッカって（ **③** ）らしいです。リッカでも、どっちでもいいみたいだけど」

男性が言った。

「雪の意味の、六花ですね」

昔から、国語が好きだった。

「よくご存じで」

なんとか無理矢理四本目の足先も拭き終えた男性が、立ち上がろうと[b]を浮かせる。けれど、なかなか上手に立ち上がれない。スーツケースに入り込んだ六花は、やれやれ、という表情を浮かべ、私が持ってきた熊のぬいぐるみをちょうど頭の下にしいて眠る体勢になっていた。

「こいつ、このままここに置いてっても、いいですか？」

ようやく立ち上がった男性が、六花と私をCコウゴに見ながらたずねる。

こんな展開になるとは、全く想像していなかった。ぽかんとしたまま、[c]を縦に動かす。夢を見ている気分になって、3ほっぺたをつねった。わずかに、冷たい感触が頬（ほお）に広がる。やっぱりこれは、夢なんかじゃない。紛れもない、現実なのだ。

「六花」

男性がいなくなってから、小さな声で六花を呼んだ。けれど、六花は少しも表情を変えることなく、じっとしている。六花はすでに、まどろみを満喫しているようだった。私が持ってきたぬいぐるみ達が、六花をぐるりと囲んでいる。

毎年、サンタクロースにお願いしていたことがある。

本当は、妹が欲しかったけれど、それはなんとなく望んじゃいけないんだということを、幼いながらに感じていた。だから、サンタさんへのお願い事は、いつも決まってこうだった。

「いぬがほしいです」

幼稚園の時から小学校を卒業するまで、私は毎年、同じ願いをサンタクロースに託し続けた。けれど、クリスマスの朝、枕元に置かれているのはいつも動物のぬいぐるみばかりだった。ある年は熊、ある年はパンダ、ある年はペンギン、ある年はねずみ、ある年は謎の生き物。4ただの一度も、生身の犬が置かれることはなかった。

中学一年になった時、さすがに事情を察し、父に言った。

「もう、サンタクロースに犬をお願いするのは、やめるね。私にはほら、ぬいぐるみがたくさんいるし」

それを告げた時の、5父のなんとも言えない困ったような表情を、私は一生忘れないだろう。父と暮らしていた集合住宅は、犬や猫を飼うことができなかったのだ。

父は、申し訳なさそうに目を潤ませて、ぎゅっと下唇を噛（か）んでいた。今にも泣き出しそうな顔をするので、逆に私の方が父を慰めたくなった。そしてその年を境に、もう我が家にサンタクロースは現れなかった。

（小川糸『ライオンのおやつ』）

※マドンナ…「ライオンの家」の管理人

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一　――線**1**は、誰が、どういう目的で追いかけていたのか、説明しなさい。

問二　空欄**a**～**c**に当てはまる言葉として最も適当なものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。同じものは二度選べない。

ア　首　　イ　顔　　ウ　目　　エ　腰

問三　――線**2**の説明として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　死期の迫った人が過ごす「ライオンの家」に、犬を連れてきた男性に怒りを覚えている。
イ　死期の迫った人が過ごす「ライオンの家」に、犬が全くいないことに疑問を感じている。
ウ　死期の迫った人が過ごす「ライオンの家」に、病人をなぐさめるための犬がいることに納得している。
エ　死期の迫った人が過ごす「ライオンの家」に、予想に反して犬がいることに驚いている。

問四　（　①　）～（　③　）に入る言葉を次からそれぞれ選び、適切な形に活用させて答えなさい。

見る　　読む　　話す　　聞く　　書く

問五　――線**3**の理由を五十字以内で説明しなさい。

問六　――線**4**の理由が書かれている一文を本文から探し、最初の三字を書き抜きなさい。

問七　――線**5**とあるが、この時の父の心情を五十字以内で説明しなさい。

問八　‖線**A**～**C**の漢字は読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間がコンピューターに勝つためにはどうしたらよいか。

その方法は「考える」こと。コンピューターは「記憶する」ことにかけてはAテキなしだが、「考える」ことを知らない。よく、プロの棋士と碁を打ってコンピューターが勝ったなんていうニュースを耳にする。コンピューターが考えているわけじゃない。知識として大量のデータを記憶しているのである。

本当の意味で「考える」ということは、日本人だけでなく、現代を生きる人間にとっても極めて難しい。なぜなら、われわれは【　1　】をもっているからだ。

知識がある程度まで増えると、自分の頭で考えるまでもなくなる。知識を利用して、問題を処理できるようになる。借り物の知識でなんとか問題を解決してしまう。

もちろん知識は必要である。何も知らなければただの2無為で終わってしまう。ただ、知識は多ければ多いほどいいと喜ぶのがいけない。良い知識を適量、しっかり頭の中に入れて、それをB基にしながら自分の頭でひとが考えないことを考える力を身につける。

ところが、である。ふり廻(まわ)されないためには、よけいな知識はほどよく忘れなければならない。しかし、3この「忘れる」ことが意外に難しい。

学校の生徒で、勉強において「忘れてもいい」と言われたことはあるだろうか？　もちろん、今の学校教育ではそんなことは言わない。ともすれば「忘れてはいけない」と教え込む。すくなくとも、「どうしたらうまく忘れるか」などという学校はないはずだ。

しかし実は、「覚える」のと同じくらいに、「忘れる」ことが大事で、しかも難しい。この「忘れる」ことによって、人間がコンピューターに勝っているのである。コンピューターは「覚える」のが得意な反面、「忘れる」のはたいへん苦手。人間のように、うまく忘れるということができない。

そもそも未知なものに対しては、借り物の知識などでは役に立たないのが当たり前だ。それまでの知識からCハズれた、わけのわからないモノゴトを処理、解決するには、ありきたりの知識では役に立たない。いったん捨てて、新しい考えをしぼり出す力が必要となる。4そういう思考力を身につけられれば、コンピューターがどんなに発達しようと、人間が存在価値を見失うことはないだろう。

人間はずっと「忘れる」ということをおそれてきた。とにかく忘れてはいけないと思い込んでいる。急に「忘れよ」などと言われたらひどくとまどう。たいていの人は、覚え方は上手でも忘れ方は下手である。

なにもそれほど難しく考える必要はない。自然に忘れる。一番簡単なのは「夜よく眠る」ことである。

前の晩に、頭に知識を一〇〇入れて寝たとする。朝になって、その知識がそのまま残っていてほしいと願う人があるかもしれないけれど、

そんなことがあっては大変。頭が壊れてしまう。正常な頭なら、前夜の知識はガタ減りに少なくなっている。なぜか？　睡眠中に忘却をすすめる働きがはたらくからである。この忘却の時間は**5**レム睡眠と呼ばれる。人によって回数に違いがあるが、ひと晩に数回おこる。

起きている間の人間の頭の中へは、いわゆる知識以外にも、雑多な刺激が常に入り込んでくる。そのようにして流れ込んできたもので不要だと思われるものを、レム睡眠の時にはねのけているのだ。

人間の頭は、自分にとって「どうも大事なものらしいぞ」というものは自動的に忘れないようにできている。当面は頭の中にないほうがいいと思ったモノを、レム睡眠は整理する。朝、目を覚ました時、たいていの人がなんとなく清々しい気分になっている。レム睡眠のおかげで頭の中の掃除が行なわれた後だから、頭の中のゴミ出しが済んだ後だからである。

この自然忘却作用は本当に大事にしなければならない。夜よく眠れない人は、大至急、眠れるようにしないと頭が悪くなってしまう。昼、詰め込むよりも、夜、不要なものをすてる方が大事である。心身の健康のためにも忘却作用を大切にしたい。

けれど、勉強しすぎて知識をたくさんとり入れると、一日一回の睡眠だけでは足りない。ゴミがいっぱい溜(た)まる。レム睡眠でゴミ出しをしてもなお、有害なゴミが頭の中に残る恐れがある。そんな場合、どうしても目が覚めている間に、よけいなことを忘れる努力をしなくてはならなくなる。有害なものは、なんとしても忘れないといけない。

そうかと言って、一日じゅう寝ているわけにはいかない。では、起きている間はどうしたらいいか、これはなかなか工夫が必要である。

6その点、学校はうまいことをしてきた。それは、異なる授業を立て続けにやるということ。英語の次に国語、その次は社会、音楽。一見、支離滅裂のようだけれど、実はこれは非常に理にかなっていたのだ。なぜなら、前の授業で詰め込まれた知識を、まったく異なる次の授業によって、レム睡眠と同じほどではないが、忘れることができるからだ。

ところが三〇年ほど前、こういう時間割に批判的な教師があらわれた。違った教科をつづけて教えては記憶効率が下がると考え、同じ内容を一括して教えれば学習能率が上がるとした。そして、「午前中はすべて英語」「午後はすべて理科」というように、休みもなくぶっ続けに授業を行うことにした。

結果はどうなったか？　思いもかけず【　**7**　】のである。それは忘れることの必要を忘れた、からだ。異なる授業をやることだけでなく、授業と授業の間の休み時間もたいへん大事だったのだ。

（「知ること、考えること」　外山滋比古　）

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一　【　1　】に入る二字の熟語を文中から書き抜きなさい。

問二　――線**2**「無為」とあるが、この熟語の意味がよく分からなくて、自分で考える場合、最も適切な筋道をたどっているのは、生徒A～Dのうち誰か。

A　読みは「ムイ」だよね。「ムイ…」か。あ、わかった！きっと「無意味」ってことなんじゃないかな？

B　いや、それなら「ムタメ」とも読めるから、「ムタ…」。あ、要するに「無駄」ってことだよ。

C　「無」は「ない」ってことでしょ？「無視」は「みることがない」んだから、「無為」は「なすことがない、つまり何もしていない」ってことだよ。

D　いや、「無」は飾りみたいなもんだから、「無為」の「為」だけに意味があるんじゃない？だから「すごくためになる」ってことでしょ。

問三　――線**3**とあるが、その理由を述べている次の文の空欄に、文中から二十字の一続きの部分（句読点などの記号を含む）を書き抜きなさい。

人間は［　　］から。

問四　――線**4**「そういう思考力」とはどのような力か、五十字以内で説明しなさい。

問五　――線**5**「レム睡眠」の果たす役割を述べている六字の語を書き抜きなさい。

問六　――線**6**とあるが、「学校」のしてきたことが、どうして「うまいこと」と言えるのかを説明した次の文の**ア**～**ウ**に入る言葉を、指定の字数で本文中から書き抜きなさい。（句読点も一字として数えます。）

人間の頭にとっては、起きている間にも**ア**（十字）努力が必要だが、学校は**イ**（十三字）ことや**ウ**（十二字）を設けることでそれを可能にしているから。

問七　【　**7**　】に入ると思われる言葉を十字前後で書きなさい。ただし、「学力」という語を必ず用いること。

問八　――線**A**～**C**の漢字は読みを書き、カタカナは漢字に直しなさい。

一般入試

令和三年度　函館白百合学園高等学校入学試験

国語　解答用紙

受験番号

氏名

一

問一
① す
② る
③ れる
④ る

問二
① る
②
③
④ かしむ

⑤
⑥
⑦
⑧

問三
①
②

問四
①
②
③

問五
①
②

問六

二

問一

問二

問三

〜

問四

10

問五

問六

小計

三

問一

小計

四

問一

問二

問三

20

問四

50

30

問五

50

30

問六

問七

50

30

問八
A いて
B
C

問一
a
b
c

問二

問三

問四
①
②
③

問五

問六

問七

10

問八
A
B
C れた

問五

問六
ア

10

イ

13

問七

10

問八

ウ

12

小計

小計

小計

得点

令和三年度　函館白百合学園高等学校入学試験

一般入試

国語　解答用紙

受験番号

氏名

得点

一

問一
① 冒す
② 検討
③ 垂れる
④ 削る

問二
① とどこおる
② しばふ
③ ていさい
④ なつかしむ
⑤ 展望
⑥ 象徴
⑦ 課題
⑧ 伝染

①×２０

問三
① 髪
② 単

問四
① ウ
② ア
③ エ

問五
① 棚
② 口

問六
ころもへん

小計 20

二

問一
① よい
② ア

問二
時々か～ゆる人 ②

問三
いろいろなこと ②

問四
② エ

問五
① イ

問六

小計 10

三

問一
入所者の男性が、汚れた犬の足を拭くため。 ④

問二
a イ
b エ
c ア
②×３

問三
エ ③

問四
① 聞き
② 書い
③ 読む
②×３

問五
「ライオンの家」で犬の世話ができるということを知り、非常に嬉しく、現実の事だと受け入れられないから。 ⑥

問六
父と暮 ③

問七
犬を飼えない事情を察して、住んでいる家で犬を飼うことを諦めた私に対し、申し訳なく情けなく思っている。 ⑥

問八
A は いて
B 格闘
C 交互
①×３

小計 37

四

問一
知識 ③

問二
C ③

問三
ずっと「忘れる」ということをおそれてきた ③

問四
それまでの借り物の知識では解決できない未知のものごとを解決するために、新しい考えをしぼり出す力。 ⑥

問五
自然忘却作用 ③

問六
ア よけいなことを忘れる
イ 異なる授業を立て続けにやる
ウ 授業と授業の間の休み時間
③×３

問七
学力は低下した ③

問八
A 敵
B もと
C 外れた
①×３

小計 33